

平成19年度第1回御園地区地域審議会概要

- 1 開催日時 平成19年6月7日（木）午後7時00分～午後9時15分
- 2 開催場所 御園総合支所 3階 学習室
- 3 会議内容 新市の一体感の醸成・意見具申について
- 4 出席委員 一蝶哲司委員、浦崎恵子委員、大西勝洋委員、奥本一志委員、倉世古淳子委員、戸上米子委員、中北好美委員、中西源委員、中村正委員、西村正委員、西村雅弘委員、西脇英一委員、濱口繁一委員、平野あけみ委員、藤原ひろみ委員、宮本隆生委員、山崎力委員、山本健司委員
- 5 欠席委員 中村浩一委員、森真吾委員
- 6 出席職員 総合支所長、地域振興課長、地域振興課主査
- 7 議事概要

会長 本日はお忙しいなか、平成19年度第1回御園地区地域審議会にご出席を賜りありがとうございます。なお、中村浩一委員、森真吾委員については所用のため欠席されているので報告したい。審議会に先立ちこの会議は過半数が出席しているので成立している。

それでは、議題に入る前に前回の審議会の中で出た質問のなかで、未回答の部分について事務局から報告をお願いしたい。

地域振興課長 それでは、お手元の配布の資料をもとにご説明したい。

まずは定員管理計画の件ですが、「最小の職員数で最大の効果をもたせることができる行政組織」の実現を目指し策定した。計画期間としては平成18年4月1日から平成23年4月1日の5年間で、数値目標として平成18年4月1日現在の職員数1,689人を基準として、5年間で102人(6.0%)の職員数の削減を行い、平成23年4月1日の職員数を1,587人以内とする。

定員管理の取り組みとして、「効果的・効率的な組織の構築」、「事務事業の整理・縮小・廃止」、「民間委託・多様な主体との協働の推進」、「人材の育成」、「長期的な視点」、「採用と退職」を掲げている。計画の進捗状況については、広報紙やホームページでお知らせする。

合併協議では、合併後10年間で類似団体の普通会計職員952人の10%減である857人を目標とするとされている。お手元の資料の消防・公営企業等を除いた職員数が879人となっており目標数値に近いことがわかる。なお、今後5年間で定年退職する人数は19年度末から23年度末で各々24人、63人、44人、51人、42人の計224人である。参考に17・18年度末に退職した職員数は40人、58人である。臨時嘱託職員については、平成

18年4月1日が677人、平成19年4月1日が686人である。

職員の給与については、平成18年7月から施行された大幅な給与制度改革において新給与体系が導入された。導入内容は、人事院勧告に沿ったものである。これにより、一部の職員については、給与月額が据え置きされる措置が取られている。また、委員ご指摘の「わたり」に関しても新制度導入にあわせ見直しを行っている。なお、平成18年度のラスパイラス指数は、98.4で県下14市中6位である。

時間外勤務手当は給料額の10%を目標としており17年度決算ベースでは目標を達成している。特殊勤務手当についても旧伊勢市の時代から見直しをかけている。さらなる削減に努めているのでご理解を賜りたい。

次に伊勢市駅前事業であるが、都市再生整備計画（山田ルネサンスゾーン地区）をご覧ください。伊勢の「顔」となる魅力・求心力のある駅前整備と観光まちづくり、潤いのある安心で便利な暮らしを実現する生活環境の整備、市民主体によるまちそだて推進の3つの整備方針で、各々主要な事業を掲載してある。事業の中には市が行うもの、県が行うもの、民間が行うものがあり、例えば電線類地中化事業、神宮参道整備事業については県、山田赤十字病院新築移転については民間である。子育て支援センター・保育所整備については皆様ご存知のように平成19年4月1日に開設しましたきらら館である。また整備方針概要図も添付させていただいた。

会 長 以上事務局から説明があったが、何か質問のある方は挙手を。

委 員 コミュニティバスについては、運行が開始されてから2ヶ月が経過したがほとんど乗車していない。以前に配付していたタクシーの500円券の方を残していただいた方が良かった。また教育予算についても当分の間現状どおりとなっているのに削減されている。その一方で職員の給与だけが確保されるのはおかしいのではないか。

地域振興課長 コミュニティバスについては、新市交通体系の見直しにより開始したものであり、一年間の試行期間で運行している。行政としては公共交通機関として市民の方に利用していただくようPRを行っている。

委 員 教育に関連することだが、学校給食用の洗浄機が洗剤の購入予算がないため活用されていないと聞いている。旧御園村では教育予算は何をおいても一番に考えてきた。数値的な資料として平成17・18・19年度の教育予算の対比を教えてほしい。

地域振興課長 次回（勉強会）までに調査して回答する。

副会長 定員管理計画に関して、津市長が旧久居市の職員給与で上乗せされ

た給料5年間分の返還を声明している。「わたり」のことは合併協議書にも書いてある。法律的に対処すべきではないか。我々はこの協議書の履行管理をしていく必要がある。例えば都市計画税については4年後に賦課される。

学校の耐震率にしても旧御園村は教育に力を入れていたので良かったが、旧伊勢市は40%台である。旧自治体のいいところをもっと見習うべきである。

委員 伊勢市駅前事業の関連で伊勢市には公園は他にもあるが、他の公園は放置されているのか。

地域振興課長 先ほど説明させていただいたものは山田ルネサンス地区であり、他の公園もバリアフリー化などを順次整備をしていくと聞いている。御園町地区についても防災の機能を有する公園の整備を予定している。

副会長 もうひとつ定員管理計画の件で新しい人材は採用しないと聞いているが実際にはどうなのか。

地域振興課長 一般職は平成18年度(18年4月1日採用)の採用は0であるが、病院等市民の安全安心のため必要な人材は採用している。一般職を採用しているのは平成19年度である。3名退職したら1名採用しバランスをとっていると聞いている。

委員 伊勢市駅前事業の関係でルネサンスゾーンに高向八日市場線が入っていないのはなぜか。用地買収も行っているが・・・。

地域振興課長 一度担当部局に確認しておきます。

副会長 給与の関係で旧伊勢市の職員の平成15年度の平均給与額を教えてください。合併の資料に記載されていたはずだが・・・。

地域振興課長 確認しておきます。

会長 それでは、本日の予定である諮問の「新市の一体感の醸成」、そして「意見・具申」について討議をお願いしたい。昨年御園地区地域審議会で作った3つの委員会に分かれて検討していただくが、時間配分については各委員会のリーダーにおまかせしたい。他に書記、発表者の方を決めてください。8時45分をめどにこの部屋にお戻りいただき各委員会より発表をしていただく。

地域振興課長 市民まちづくり委員会の方については、この部屋に残っていただき、税・金融・経済委員会の方は2-3へ、教育・道徳・民生委員会の方は2階応接室へ移動してください。検討会に入る前に先ほど会長から連絡がありましたように各委員会でリーダー・書記・発表者を決めていただきたい。

(7時45分～8時45分まで各委員会で検討会を開催し、その後

全体会で各委員会の意見発表を行う。各委員会から出された意見は下記のとおり)

市民まちづくり委員会

- ・ 箱物作りはこれ以上は必要ないので、これからは自然を生かした集約的な施設を作っていってほしい
- ・ 目的を持った計画作り（道路等）に集中的に投資をする。
- ・ 伝統的な芸能等の組織を作っていく。
- ・ 御園町は旧御園村の意識が未だに強く残っていると感じるので新しい組織を作っていくのが非常に大変だと思う。今までの慣れを払拭するためにも補助金、活動費等について再構築していく必要がある。

税・金融・経済委員会

- ・ 御園町は農村地域が多いので自治会は機能している。課題は御園町への転入者の方をいかに巻き込むかである。
- ・ 自治体は老人福祉に冷たいので、自治会が老人会への活動助成をしてはどうか。
- ・ 合併協議の協定を遵守することから新市の一体感の醸成が生まれる。
- ・ 区長（自治会長）は熱心な人を選出する。
- ・ 市民の大半は協力的であるので、市の応援体制を改善すればもっと良くなる。
- ・ 目標を立てるだけでなく、どれだけ熱心に取り組むかという内容を重視する必要がある。
- ・ 議会がもっと市民の生の声を聴いて市政に反映すべきである。
- ・ 市職員の積極的な地域活動への参加を望む。

教育・道徳・民生委員会

- ・ コミュニティの形成、ボランティアについて、新市になって範囲が広くなりうまくいかなくなっている。スポレクもいつまで続くのか心配である。さわやかスポーツでも旧御園は旧御園、旧伊勢市は旧伊勢市でかたまっている。市民参画の面で金銭的な面が大切であるが、4つの旧自治体で温度差がありどんどん削られている。御園地区の学校の木の剪定予算もなく、PTAがするのか生徒がするのか（どちらも危険だが）どこかの業者がボランティアでしてくれるのか困っている状況である。
- ・ 合併後旧伊勢市に合わせさせられているように思える。学校関係でも新伊勢（旧二見・旧小俣・旧御園）旧伊勢と呼ばれている。発想の転換が大切だと思う。
- ・ コミュニティバスについては、御園ルートは宇治山田駅に行く便がない。対象が足のないお年寄りというのは理解できるが学校へ行く子どもたち

も利用できる時間帯を設定していないのが残念である。

- ・ 教育関連において特色ある活動事業の補助金300万円（20万円×15校）が今年削除されてしまった。新市になってから形式的な行事が多くなっている。伊勢市の全ての小中学校が同じ事をするのが新市の一体感につながるとは思えない。それぞれの地域の良さを生かした教育を進めることが結果的に一体感になる。学校の特色に合わせた予算が必要である。
- ・ 食育については、現在伊勢市で3人の栄養教諭の方が伊勢市36校を受け持っており、掛け持ちの限度を超えている。子どもたちの朝食問題など食育の重要が叫ばれているなか人的な配慮を願いたい。
- ・ A L Tについては、旧御園村では月1回はどのクラスの授業を確保できたが、現在は6人のA L Tが2校を掛け持ちしており十分な英語教育が実施されていない。人的予算措置をしないと本当の実力はつかない。伊勢市の通塾率が高いのは学校に期待されていない証拠である。行政の方針としてどんな教育を目指しているのか明確にしなければならないと思う。
- ・ 野外学習等で子どもたちにいろいろな体験をさせてあげたいが、安全面で担任だけでは不安である。学習支援員の配置を充実する必要がある。

会 長 委員の皆さん長時間にわたりお疲れさまでした。事務局には3つの委員会の意見を集約していただくようお願いしたい。終了予定時間の9時を過ぎたので、本日の協議を終わりたいと思う。

なお、6月12日に昨年市長から諮問事項でありました「伊勢市総合計画の基本構想原案」についての答申を私と大西副会長で提出する。最期に事務局から何か連絡はありますか。

地域振興課長 次回の地域審議会は11月頃を予定している。日程については、決定次第文書にて連絡させていただく。

なお、事務局として懇話会（勉強会）の開催を7月と9月の2回考えているが・・・。

（異議なし）

会 長 これで平成19年度第1回御園地区地域審議会を終了する。

終了